

母親世代と今の受験 ここが大きな相違点

大学全入時代を迎え、自分が経験した受験と、今の受験が大きく様変わりしていることは分かっている、何がどう違っているのか、今ひとつピンとこない母親世代。そこで、教育コンサルタントの亀井信明さんに、2012年の動向を踏まえた大学受験の今を解説してもらいました。

教育コンサルタント
亀井信明さん

高等教育総合研究所代表取締役。大手予備校「河合塾」で教務本部長、東京GA本部長を務めた経験を生かし、教育コンサルタントとして執筆・講演活動、テレビ出演など多岐に渡って活躍



入試の多様化

センター試験、全学部統一入試など 入試の多様化が一番の相違点、

今年子供が大学受験を迎える母親は、いわゆる「共通一次世代」。1979年から1989年に国公立大学およびそれに準じる一部の大学で行われていた共通試験です。1月に5教科7科目(87年から5科目)についてマークシート方式で一次試験が行われ、3月に各大学ごとに二次試験が行われ、受験生は国立に行くか私立に行くかを早々に決断し、受験に備えたものでした。

「大学入試センター試験(通称センター試験)」は、この共通一次試験が改称されたもの。1990年から実施され、国立のみならず私立大学の約8割が参加し、年々利用度は拡大傾向にあります(表①参照)。

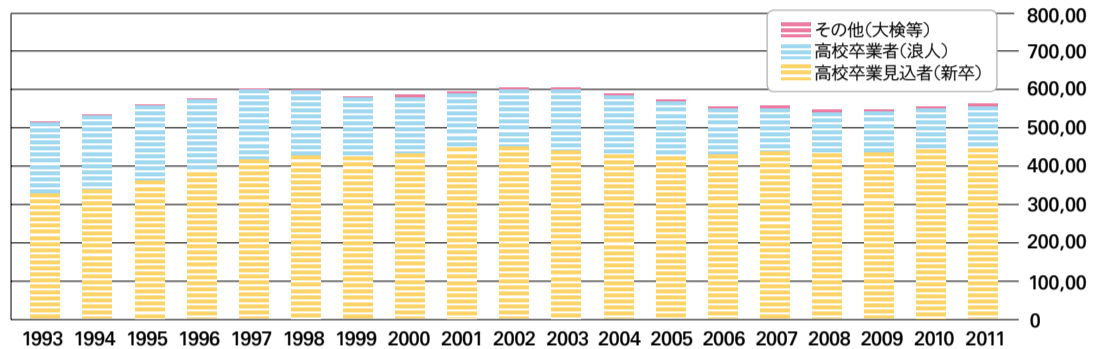
センター試験は、今や多くの受験生が受験し、高校の学習指導要領に準拠した標準的な出題がされています。最大9科目まで受験でき、受験後に発表される各科目の平均点と自分のセンター試験の成績から、受験生は出願する大学・学部を決定します。

私立大学の入試でも、入試科目の一部またはすべてをセンター試験の成績で査定する入試方法が広がっています(表②参照)。国立、私立を問わず受験対策としては、センター試験を意識させるを得ないのが実情です。

また、私立大学が大学ごとに実施している「全学部統一入試」とは、全学部の受験生が共通の試験を受けること。明治大学をはじめ、駒沢大学や成蹊大学など、採用している私立大学は相当数にのぼります。全学部が同時に試験を実施し、同じ問題を受けるため、学部ごとに傾向と対策を気にしなくても済み、複数の学部へ出願できるメリットがあります。つまり合格のチャンスがそれだけ増えるわけです。

このほかAO入試や推薦など、入試の多様化は、受験生の負担軽減の方向で今後も進んでいくものと思われます。

表① センター試験の志願者数の推移(現役・浪人別)



表② 明治大学商学部2012年度募集人員

入学試験形態	募集人員	志願者数	志願倍率	
一般入試				
一般選抜入試	450	8774	19.5	
全学部統一入試	60	2112	35.2	
大学入試センター試験利用入試	前期3科目	50	3126	62.5
	前期4科目	40	1428	35.7
	前期6科目	15	778	51.9
	後期	18	241	13.4
特別入試				
公募制特別入試	25			
外国人留学生入試	若干名			
スポーツ特別入試	45			
推薦入試				
付属高校からの推薦入試	160			
学部が指定する高校等からの推薦入試	157			
合計	1,020			

※志願者数・志願倍率は2011年度

「2011年6月25日付「リビング大学進学スペシャル」に掲載されました